

経営比較分析表（平成29年度決算）

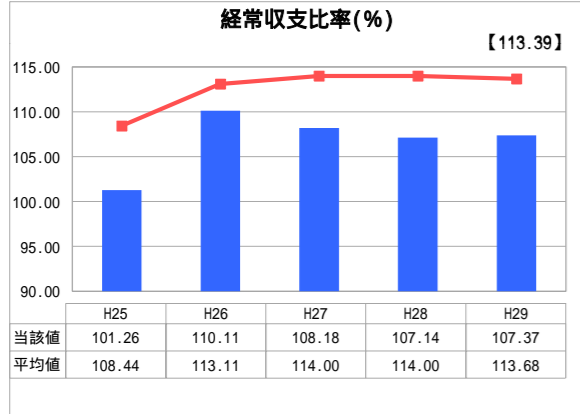
埼玉県 三郷市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	84.78	100.00	2,106	

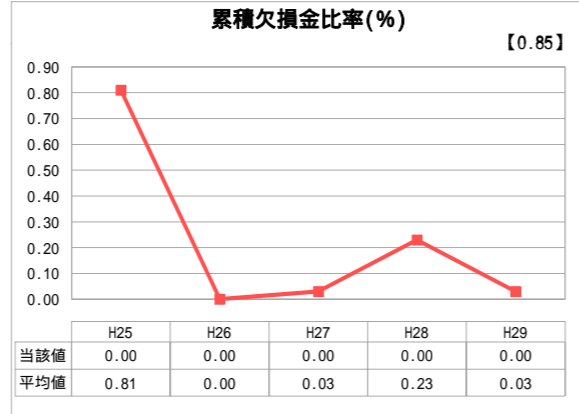
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
140,100	30.13	4,649.85
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
140,702	30.22	4,655.92

グラフ凡例
当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】平成29年度全国平均

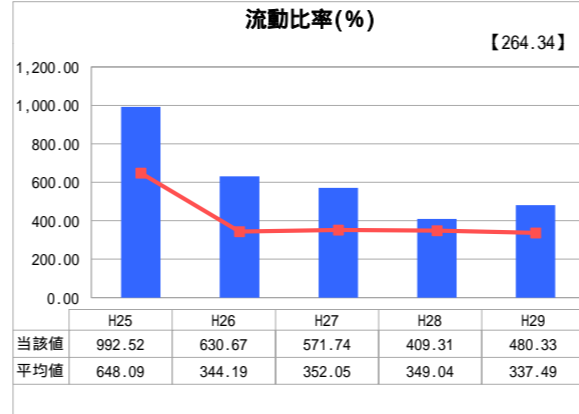
1. 経営の健全性・効率性



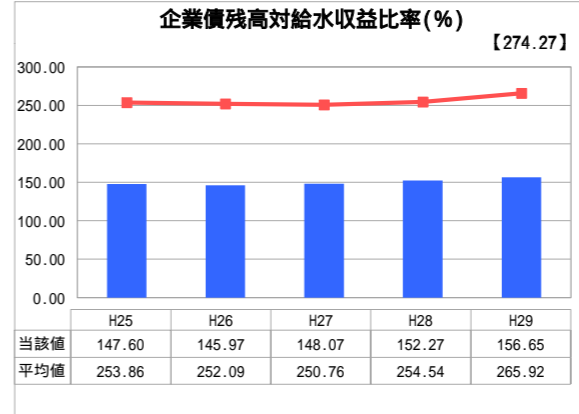
「経常損益」



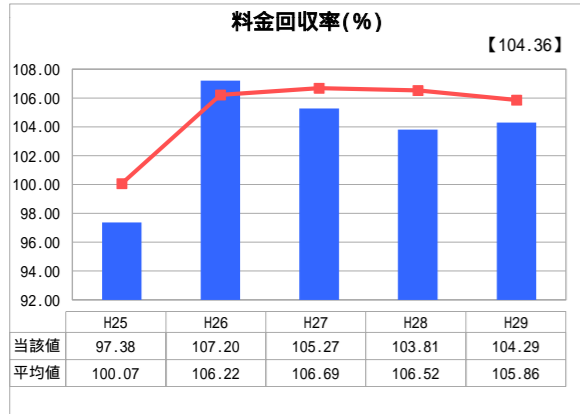
「累積欠損」



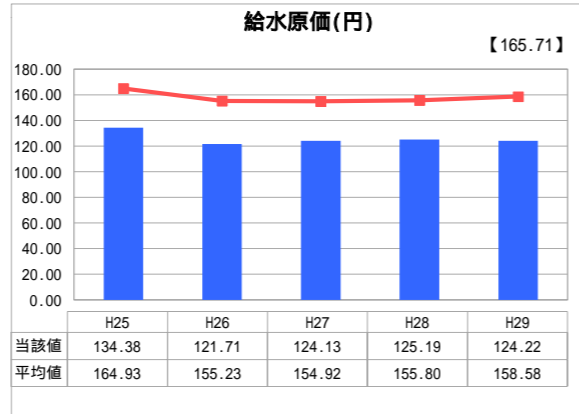
「支払能力」



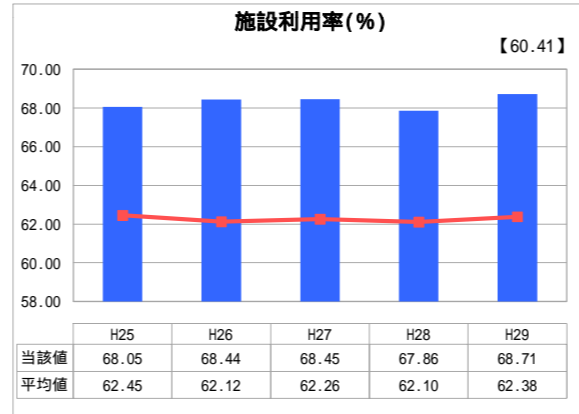
「債務残高」



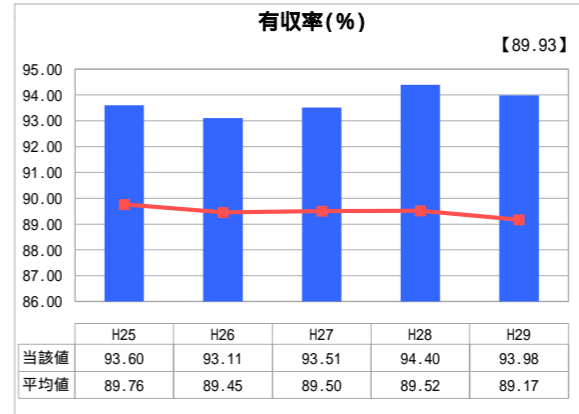
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

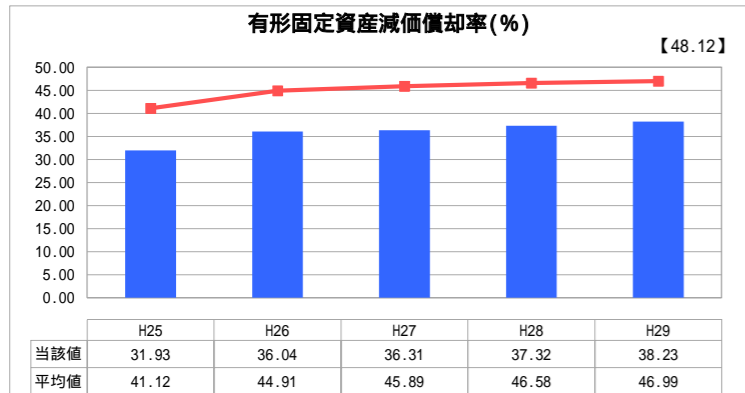


「施設の効率性」

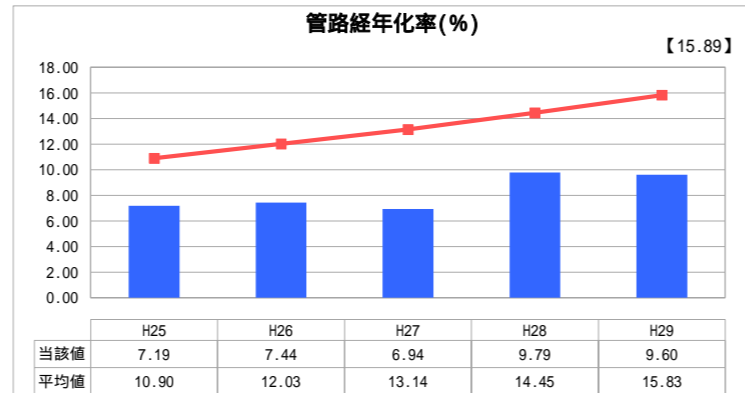


「供給した配水量の効率性」

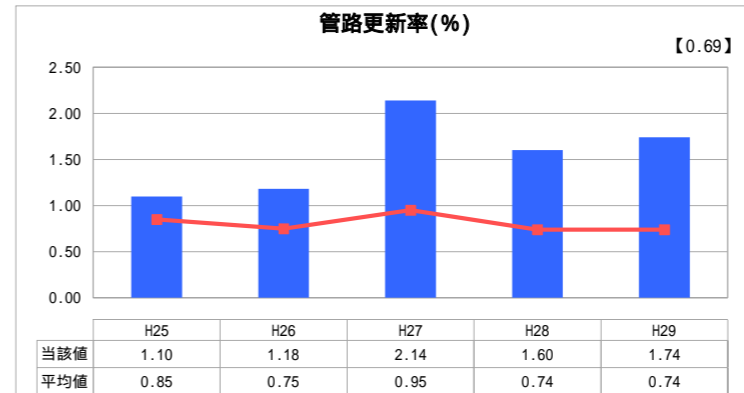
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、100%を上回っているが、類似団体平均値を下回っており、将来の更新財源が確保されているとは言い難い状況である。
流動比率は100%を超えており、短期的な債務に対する支払能力を有しており問題ない。
企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値を大きく下回っているが、近年、管路の耐震化等を推進していることから、数値の上昇が続いている。将来世代の負担が課題とならないよう、企業債残高を適正に管理していく必要がある。

料金回収率は、平成25年度まで100%を下回っていたが、平成26年度以降は、会計基準の見直しにより給水原価の算出方法が変更されたことから、100%を上回る結果となった。しかし、これは算出方法が変更されたことによるものであり、経営状況は依然として厳しい状態が続いている。
給水原価は、効率的な事業運営に努めてきたことなどから類似団体平均値を下回っているが、近年、施設更新に伴い減価償却費が増加傾向にあるため、今後は増加していくことが見込まれる。

施設利用率は、類似団体平均値を上回っており、施設を効率的に利用している。
有収率は、類似団体平均値を上回っているが、今後も引き続き老朽管の布設替えの推進や漏水調査を実施すること等により、有収率のさらなる向上に努めていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却費、管路経年化率ともに類似団体平均値を下回っているが、老朽化が進んでいる。特に昭和50年代に布設された管路が多く、数年の間で法定耐用年数を迎えることとなるため、今後、管路経年化率の上昇が見込まれる。

管路更新率は、類似団体平均値を上回っているが、石綿セメント管や老朽管など早急に更新が必要な管路があるため、財政状況を勘案し、計画的に更新を進めていく必要がある。

全体総括

各指標の値を類似団体と比較すると、良好な運営状況であると言える。しかし、今後も健全な事業運営を持続していくためには計画的な施設の更新が必要であるが、そのために更新財源の確保が十分とは言えない状況であるため、今後は料金改定を含めた様々な財源確保策を検討していく必要がある。